

1年-20 題材名 「二学期の計画」

1 目標

- ア 二学期の大きな流れを把握させ、種々の取り組みを想定させて、どの時期にどんな生活を送るかの見通しをもたせる。
- イ 二学期の学級の具体的活動を決めさせ、二学期の学校生活への早期の適応を図らせながら、望ましい人間関係を確立させる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：新学期に当たっての不安を取り除く。
- イ **問題解決能力**：学級生活をよりよくするための工夫や計画についての話し合いで積極的に意見を述べる。
- ウ **意志決定能力**：話し合いで決定したことを踏まえ、集団生活の中で自分を生かしていく意欲をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 一学期末反省で確認された「二学期に頑張っていくこと」を踏まえて具体的な改善策を考えさせ、集計しておく。
- イ **「二学期の大きな流れ」を示した資料**を用意し、行事を中心にして見通しをしっかりとまとめる。
- ウ 集団生活が人間形成に果たす役割の重要性を理解させる。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等	主な指導と援助
導入 3分	1 先生からの、二学期における期待や思いを聞き、本時のテーマを確認する。 二学期の学校生活の流れをつかみ、学級としての二学期の計画を考えよう	二学期になると、中学校生活にも慣れてくる。それとともに、学級や班・系の活動等がおろそかになったり、人間関係で問題が起こったりする。しかし、二学期は様々な行事等が目白押しであり、学級集団の活動が問われる。そこで、夏休み明け早期に学校生活への見通しをもたせ、級友と協力しながら学級活動を充実させる方途を考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。
展開 40分	2 先生から、行事を中心に二学期の流れについて説明を聞き、二学期の学校生活のイメージを把握する。	教師が用意した「二学期の大きな流れ」を示した資料を基に、二学期の学校生活における諸活動の見通しをもたせる。 感情統制能力 に関する工夫 →「二学期の大きな流れ」の活用
	3 一学期末の反省の結果を振り返り、二学期に学級として頑張っていくことを確認する。 ・学級全体で取り組むこと ・班や係で取り組むこと	一学期末の反省の記録を基にして全員で確認し、一人一人の生徒に、二学期の方向性をしっかりと意識化させる。 級友と協力し学級集団での生活や活動を充実させることが、一人一人の成長にも大きく影響することを説明する。
	4 二学期に取り組むことの詳細策のアンケート結果をみて、みんなの考えの傾向を把握する。 ・学級全体での取り組みに関して ・班や係の取り組みに関して	事前に実施した「二学期に頑張っていくこと」のアンケート結果を配付し、具体的な活動のイメージ化を図る。
	5 二学期に取り組むことの詳細策、班としての具体案を話し合い、発表する。 ・前向きな姿勢で建設的に話し合う	アンケート結果や、2番で確認した二学期の大きな流れを踏まえながら、多数決によってではなく、学級目標の達成のために大事な活動かを考えさせる。 問題解決能力 に関する工夫 →学級として目標達成する上で大事な事項を考える
	6 各班からの発表を基に、学級として取り組み策を決定する。 ・実行可能でやりがいのある活動 ・学級の向上、学級目標の達成につながる活動	各班から出された事項に対して、必要に応じて質疑を交わさせ、学級としての考えにまとめさせる。 問題解決能力 に関する工夫 →学級として目標達成する上で大事な事項を考える
終末 7分	7 学級としての取り組み策の決定を受けて、各自がどのように頑張っていくか（努力事項）をワークシートに記入する。 ・自分のできることを責任をもって精一杯行う ・学級や班、係の向上のために協力する	学級としての取り組みの面、班活動としての取り組みの面、係としての取り組みの面から各自の努力事項を考えさせ、ワークシートに記入させる。 意志決定能力 に関する工夫 →各自の努力事項のワークシートへの記入

5 事後指導

- ・決定事項を学級掲示し、取り組みの前後（節目節目で）実行状況を確認させる。

1年-21 題材名 「働く人々のすがた」 (2時間扱いの1時間目)

1 目標

- ア 働く人びとのすがたは、職業によってさまざまであることに気付かせ、職業に対する視野を広めさせる。
- イ 職業を仕事の内容面からとらえる見方に気付かせ、そのとらえ方を把握させて、職業をより深く理解させる。

2 ガイダンスの機能 (選択) にかかわる能力

- ア **思考能力** : 職業を仕事の内容からとらえる。
- イ **情報選択能力** : 働く人びとの姿は、職業によって多様であることを知り、職業に対する視野を広げる。

3 指導上の工夫 (留意点)

- ア 職業を、仕事の内容面からとらえる見方を、具体的な事例をとおして学ばせる。
- イ **身近な人びとの職業について簡単な事前調査** をさせておく。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 身近な人びとがどんな仕事をしてるか発表し合い、本時の活動テーマを確認する。 職業によって働き方や仕事の内容にどのような違いがあるか考えよう
展開	2 職業をどのような観点で分けることができるかを考え、発表する。 ・働き方の面からの観点 3 ワークシートを基に、職業を分ける観点の例を理解する。 ・働く場所 ・働く時間 ・服装 ・相手 ・働く年齢 ・資格や免許 ・専門性 ・仕事の変化 ・その他 (2番での意見から) 4 自分の親 (または身近な人) の職業について、3番の観点に従って分類し、仕事の内容を考えてみる。 ・自分の考えを書く
開	5 職業によっては、仕事の内容を様々含んでいるものがあることの例をあげさせる。 ・会社員 ・公務員 ・団体職員 等
40分	6 会社員を例に、その中の様々な仕事を班で考えさせる。 ・役員 ・事務員 ・技術者 等
終末	7 自分の希望する職業を、職業の分類の観点 (働き方) と仕事の内容からまとめる。 ・ワークシートに記入する
5分	8 本時の学習のまとめと学習の発展について先生からの説明を聞く。 ・職業に対する視野を広げる意欲をもつ

主な指導と援助

できるだけ多くの生徒に発表させる。
学級の生徒の父母の職業を集計した資料を提示し、様々な職業があることを把握させた上で、各職業の仕事の様子を考えていくことを、本時の活動テーマとして確認させる。

自由にいろいろな意見を出させる。
意見が出にくい時は、学習課題の中の「働き方」に着目させて考えさせる。

ワークシートは、「中学生活と進路」のpp. 44-45を基に作成する。「中学生活と進路」に例示された8つの観点の一つ一つについて、さらに細かく分類の例を示しておく。
2番で発表された中から、よい意見も取り入れて、その他の観点到に付け加える。

情報選択能力 に関する工夫
→職業を分ける観点の例

職業によっては、いくつかの観点到にまたがるものがあることに気付かせ、次の活動につなげる。

思考能力 に関する工夫
→各職業の仕事の内容を考える

言葉としては一つの職業でも、その中で働いている人によって仕事の内容が異なっている例を考えさせる。
ヒントとして、学校の先生方をあげてもよい。

例として取り上げる職業は、地域の実態等に即して考える。

思考能力 に関する工夫
→例示した職業の仕事の内容を考える

職業を選択していくに当たっては、自分の希望する仕事の内容まで掘り下げて、具体的に考えていく必要があること (単に会社員や公務員等ではなく、その中の職種まで考えること) を強調しておく。
新聞を利用して、もっと様々な職業を調べてみるように促す。

5 事後指導

- ・各自の希望する職業についての記入状況を点検し、必要に応じて個別指導する。
- ・新聞の中にある職業を抜き書きして分類させてみる。

1年-22 題材名 「働く人々のすがた」 (2時間扱いの2時間目)

1 目標

- ア 働く人びとの仕事に対する考えや仕事への取り組みについての調査(職場訪問学習)の事前準備をさせる。
- イ 働く人びとの調査の疑似体験を行わせ、質問項目等を吟味させる。

2 ガイダンスの機能(選択)にかかわる能力

- ア **思考能力** : 働く人びとへの調査活動の疑似体験をとおして、訪問調査の仕方やマナーを考える。
- イ **情報選択能力** : 働く人びとの姿を調査する際の一般的な準備や質問項目について理解する。

3 指導上の工夫(留意点)

- ・職場訪問学習(働く人びとの調査)の事前準備について吟味させるため、班毎に**職場訪問学習当日の調査活動の場面でのロールプレイング**を行わせ、それについての意見交換をとおして事前指導を充実させる。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入 3分	1 働く人びとの考えや働くことの喜び・苦勞を知るにはどうすればよいか考える。 働く人びとの、仕事に対する考えや取り組みの様子を調べるための準備をしよう
展開 40分	2 働く人びとの調査をする際の事前準備に必要なことや手順を考えさせる。 3 資料を基に、「事前に準備すること」をまとめる。 ・班毎に調査対象を分担する ・アポイントをとる ・下調べをする 4 調査をする人びとを班毎に選び、決定する。 5 資料を参考にして、「質問項目」を考える。 (1) 必須の質問事項 (2) 各班独自の質問事項 6 当日の調査活動を、班毎にロールプレイする。 ・班の中の役割分担に従って演じる 7 各班のロールプレイを見て、質問の内容や、質問の仕方、態度等について意見を述べる。
終末 7分	8 各班毎に、職場訪問学習の準備について吟味する。 ・事前準備に関して ・質問項目に関して 9 先生からの講評を聞く。

主な指導と援助

自由に発言をさせる中で、実際に職場を訪ねて「働いている人に聞けばよい」ということに気付かせる。そして、職場訪問学習を行うための準備をすることを、本時の活動として確認させる。

調査対象を具体的に想定して考えさせる。

[アポイントの取り方]

- ・先生と相談しながら、調査の目的を電話等で伝え、協力の依頼をする。
- ・協力が得られたら、訪問の日時と場所、服装や持ち物等を打ち合わせる。
- ・担当者の名前、連絡方法を確認する。

情報選択能力 に関する工夫

→**職場訪問学習の事前準備の仕方**

他の班とからかわないように調整させる。

事後の報告会で情報の共有を図ることや、職業の調査の一般的な型を学ばせることを考え、共通の質問事項を設定しておく。独自の質問事項としては、その職業の特性に合わせたものや生の声でしか聞けないものを考えさせる。

情報選択能力 に関する工夫

→**職場訪問学習の質問事項の準備**

どの班からでもできるように準備させる。時間を見ながらできるだけ多くの班にロールプレイをさせる。

思考能力 に関する工夫

→**職場訪問学習の調査活動のロールプレイ**

ロールプレイとその後の意見交換をとおして、他の班から指摘されたことや学んだことを積極的に取り入れさせる。

5 事後指導

- ・時間内にロールプレイできなかった班は、短学活等の中で実施する。
- ・事前準備の進行状況を、期日を決めて報告させ、適宜アドバイスをする。
- ・質問事項に対しても適宜アドバイスをする。

1年-23 題材名 「働く人々の仕事と考え1」

1 目標

- ア 人は何のために働くのかを考えさせ、職業の三要素について理解させる。
- イ 働く人びとの、仕事に対する考えや仕事への取り組みを知り、職業や働くことに対する関心や理解を深めさせる。
- ウ 身近に働く人びとの姿や考え方に触れることにより、職業選択能力や職業観・勤労観を育成する。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：人は何のために働いているのか考える。
- イ **問題解決能力**：働く人びとの職業観や勤労観を参考にして、自分の希望する職業をとらえ直す。
- ウ **情報選択能力**：自らの職業観・勤労観の基礎を築く。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 職場訪問学習で調査してきた事柄（仕事をする目的）を整理し、資料として活用する。
- イ 身近に働く人びとの様子や考え方などに注目させる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 人は何のために働くのかを考え、発表し合い、本時の活動テーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 人は何のために働いているのか、働くことの意味を考えてみよう。 </div>
展開	2 自分の考えは、職業の三要素のどれに最も近い か、立場を決定する。
	3 経済性派、社会性派、個人性派に別れて、それを選択した理由を考え、ワークシートに記入する。 ・自分の考えを記入する
	4 三つのグループそれぞれの意見を発表し合う。 ・何をすることも先立つものはお金だから、収入を得るためだ ・自分の個性や能力を生かして好きなことを仕事にすると楽しいはずだ ・人から感謝される仕事や世の中の発展に尽くせば、やりがいも生まれるはずだ
展開	5 職場訪問学習で調査してきた、働く目的の集約結果の資料を読み、感想を発表する。 ・三つそれぞれの考えや、複数にまたがる考えがあって、どれがいいとはいえない ・その時の社会の状況にもよるようだ
	6 何のために働くのか、再度考え、自分の意見をワークシートにまとめる。
終末	7 自分の希望する職業について、職業の三要素の面から考える。 ・どの要素を大事にするかは、自分の生き方に通じる ・少し迷いが生まれたところもある

主な指導と援助

自由に発表させる。
 出された意見を、経済性（収入）、社会性（社会貢献）、個人性（個性や個人の能力の発揮）の観点で分類しながら板書し、職業の三要素を把握させ、これを基にして働く目的を考えていくことを、本時のテーマとして確認させる。

考えが複数の要素にまたがることもあり得るが、その場合でも最も重要と考える要素一つを選択させる。

机をコの字型にし、討論しやすい形にする。
 まわりの級友と相談せずに、自分の考え（理由）を書くように促す。

思考能力 に関する工夫
 → **仕事をする目的を考える**

司会は教師が務める。
 できるだけ多くの生徒を討論に参加させ、討論が発展するように配慮する。
 討論の中で、各自が多面的なものの見方に触れ、考え方が深まっていくように努める。

情報選択能力 に関する工夫
 → **職業の三要素で仕事をする目的を考える**

実際に仕事に就いている人たちの考えに触れて、自分達の考えと対比して考えを深めさせる。

情報選択能力 に関する工夫
 → **実際に働いている人の仕事をする目的を知る**

最初の意見と変わってもかまわないことを告げる。
 考えが変わった人を挙手させ、職業のもつ意義の多様性を理解させる。

三要素は、一つの職業の中に一つということではない。また、人によっても一つに限って考えているわけでもない。一人一人様々な考えや価値観があることに留意させる。

問題解決能力 に関する工夫
 → **自分の希望する職業を三要素からとらえ直す**

5 事後指導

- ・迷いが生まれたり、考えが揺らいだという生徒には、個別に教育相談を行う。

1年-22 題材名 「働く人々の仕事と考え2」

1 目標

- ア 働く人びとの、仕事に対する考えや仕事への取り組みを知り、職業や働くことに対する関心や理解を深めさせる。
- イ 働く人びとからのアドバイスを基に、自分の夢や希望を実現していくための中学校生活の送り方を考えさせる。
- ウ 身近に働く人びとの姿や考え方に触れることにより、職業選択能力や職業観・勤労観を育成する。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：班員と協力して職場訪問学習の報告を行う。
- イ **意志決定能力**：職場訪問学習報告会で学んだことを基に、これからの中学校生活での心掛けを決意する。
- ウ **情報選択能力**：職場訪問学習報告会の情報を、職業選択能力や自らの職業観・勤労観の拡充に生かす。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **職場訪問学習で調査してきた事柄（中学生へのアドバイス）を整理し、資料として活用する。**
- イ **職場訪問学習の報告会**で各職業の調査の情報の共有化を図る。
学年合同で実施することも考えられる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	<p>1 職場訪問学習の報告会のねらいと進め方について、先生から説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 職場訪問学習の報告会をし、職業や仕事に対する考え方や働いている様子を学び合おう </div>
2 分	<p>2 各班毎に職場訪問学習の結果を発表する。</p> <p>(1) 共通の質問事項で調査してきたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の職業の選択理由 ・仕事の内容 ・勤続年数 ・辛いことや嬉しいこと ・今の気持ち ・将来の夢とその計画 <p>(2) 独自に調査してきたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その職種で特徴的なこと ・取材の中の忘れられない一言 等
展	<p>3 各班の発表が終わる毎に、質問や意見、感想を述べ合う。</p>
45 分	<p>4 各班で聞いてきた「中学生へのアドバイス」の資料を読んで、自分の将来の夢や希望に当てはめ、これからの中学校生活で心掛けていくことをワークシートにまとめる。</p>
終 末	<p>5 職場訪問発表会の感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表を聞いて、いろんな職業の様子を知ることができた ・夢に向かってアドバイスを生かしていきたい
3 分	<p>6 先生からの講評を聞く。</p>

主な指導と援助

司会は、学級担任または学年の進路担当が行う。事前に、進行の仕方を、各班の代表と打ち合わせておく。

左の展開例は、班毎に順番に発表し、その都度質問や意見、感想を述べ合う、一般的な報告会のスタイルである。
 1年-22の指導計画案で示したように、情報の共有化を図りやすくするため、共通の質問事項に対する調査結果を初めに発表させる。

ポスターセッション形式での発表も考えられる。その際の留意点は次のとおりである。

- ・全員が発表者と聞き手の両方を体験できるプログラムや発表順序の工夫（班の中でも、発表者を交代する等）
- ・各班の発表ブースの確保（Y字型ブースや△型ブース等、狭い場所でも発表しやすいブースの形の工夫）
- ・ブースの掲示物の制作技能や発表力等の育成

- 人間関係能力** に関する工夫
→職場訪問学習報告会での班の発表
- 情報選択能力** に関する工夫
→職場訪問学習報告会からの情報

全班に対して積極的に質問や意見を出すように指導する。発表後は、拍手で讃え合わせる。

人生の先達からの励ましのことばであり、多くの示唆を含んでいることを読み取らせる。

- 意志決定能力** に関する工夫
→これからの中学校生活

数名に発表させる。事前に、感想発表者を決定しておくことも考えられる。

5 事後指導

- ・発表で使った資料や掲示物は、進路コーナー等に掲示しておく。
- ・ワークシートの記述内容を生かしながら、お世話になった人に礼状を送る。
- ・各班の発表の概要（ワークシートの記述内容）を、通信等で紹介する。

1年-27 題材名 「人と個性」

1 目標

- ア 進路指導の自己理解の導入として、「自分を知る」ことの必要性や方法、内容等を理解させる。
- イ 互いの個性を認め合う中で、温かい人間関係を築かせる。
- ウ 人にはそれぞれ個性があることを把握させ、かけがえのない自分の個性を大事にしていこうとする気持ちをもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応／選択）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：互いの個性を認め合う中で、自分の良さを理解し、伸ばしていく。
- イ **情報選択能力**：自分を知るための内容や方法を理解することで、個性と進路の関係に気付く。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 互いの個性を認め合う中で自己のよさを理解させる。
- イ 「家族から見た私」の事前調査をさせる。
- ウ **インスピレーション・クイズ（ヒントは4つ）**を用意し、自分や級友の良いところを考えさせておく。
- エ 「〇〇さんのよいところ」の手紙を書かせ、互いの個性を認め合わせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 インスピレーション・クイズを行い、学級の誰であるかを当てる。 人それぞれがもっている「個性」を認め合い、自分の個性について考えていこう
7分	
展開	2 先生から、個性とは何か、自分を知ることの意義について説明を聞く。 ・個性は、個人特有の性質であることが分かる
	3 自分を知るためにはどうすればよいか考える。 (1) 自分を知るために調べる内容を理解する。 ①行動や性格 ②学習への興味関心・成績 ③身体や運動能力 ④趣味・特技 ⑤仕事への興味関心 ⑥進路の希望 ⑦家族の希望や考え 等 (2) 自分を知るために調べる方法を理解する。 ①自分自身での振り返り ②諸検査や実体験 ③周りの人（家族、友人、先生）の意見
	4 各班毎に、他の班員に対する「〇〇さんのよいところ」の手紙を書き合う。 ・班の中で、自分以外の班員全員に対して手紙を書く ・自分では気付かない長所に気付かせる気持ちで真剣に書く
	5 「自分の特色についてのまとめ」のワークシートについて、分かる部分を記入する。
36分	
開	6 本時の活動の感想を書く。
	7 個性を基にしたクイズについて考えることで、次時の活動内容を知る。 ・個性を生かすことの意味から、個性と職業の関係について考えていくことを把握する
7分	
終末	

主な指導と援助

インスピレーション・クイズは、将来の職業の希望から入ることによって、進路学習の導入であることを意識させる。先生が大きな声でゆっくりと読み上げる。ウォーミングアップとして、先生の問題から入ってもよい。班毎に競い合わせる等して盛り上げることも考えられる。

自分を知ることは、理想の自分に近づく第一段階であり、自分のよさ・長所（特長）を知ることは、進路選択の上でも大切であることを説明する。しかし、自分の長所を知らない中学生が多いことを「中学生活と進路」p.60の資料を基に把握させる

自分のどんなことを知る必要があるか、どのようにすれば知ることができるかの二つの視点から自由に意見を発表させる。意見が出にくい時は「中学生活と進路」のp.61を参照させて理解させる。

情報選択能力 に関する工夫
→自分を知るために調べる内容

自分自身による評価では、過大評価や過小評価に陥る危険性があり、客観的に自分を見てくれる人や、試験や検査等も必要であることを理解させる。

情報選択能力 に関する工夫
→自分を知るために調べる方法

自分を知るために、友人から意見をもらう活動をさせる。互いに書き合う時間等を考慮し、班の人数は、6名以内（書き合う人数5名以内）を目途とする。6名を越える場合は班を分割する。また、学級の実態によっては、任意にグループを作ることも考えられる。良さだけを書かせる（傷つくことは書かない）事を徹底する

人間関係能力 に関する工夫
→「〇〇さんのよいところ」の手紙

「周りの人から見て」の欄は、「〇〇さんのよいところ」の手紙や「家族から見た私」の資料を活用させる。時間を決めて記入させる。未完成の部分は、次時まで記入して行くように指示する。

教師が出題する。
〔問題〕次の様な個性の持ち主は、デザイナー、アナウンサー、警察官、看護師、のどの職業に向いているでしょうか。
・人前でしゃべることが好き。
・政治からスポーツまで幅広い知識をもっている。
・声が大きくてはっきりしている。

5 事後指導

- ・「自分の特色についてのまとめ」のワークシートは、次時まで完成させる。

1年-28 題材名 「自分の特色、友達のよさ」

1 目標

- ア 個性と職業との関係について具体的な例をとおして考えさせ、自分の個性と将来の職業についても考えさせた上で、自分の個性を将来の職業に生かしていこうとする態度を身に付けさせる。
- イ 自分の個性を生かすために、日常の生活の在り方や将来の職業の選択の在り方について考えさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自分の希望する職業にはどんな能力・適性が求められるか考える。
- イ **問題解決能力**：自分の個性を生かすために、日常の生活がどうあればよいのか考え、改善する。
- ウ **意志決定能力**：自分の個性を将来の職業に生かしていこうとする気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 個性と職業との関係について**職業当てクイズ**等をとおして考えさせる。
- イ **ジョハリの「心の4つの窓」**の作業をとおして自己の理解を深めさせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 前時の復習をし、本時は個性を生かすために、 個性と職業の関係を考えていくことを確認する。 個性と職業との関係を考え、自分の個性をさらに伸ばすための目標を考えよう
展開	2 個性と職業との関係について、事例を基に考える。 (1) 職業当てクイズをする。 (2) いくつかの職業について、どんな個性をもった人が適しているか考える。 3 自分の希望する職業に求められる能力や適性を考え、自分の個性と比較して今後の努力点を書き出す。 ・求められる能力や適性 ・今後の努力点 4 自己理解をいっそう深めていくための方策として、ジョハリの「心の4つの窓」について先生からの説明を聞く。 5 ジョハリの「心の4つの窓」に実際に書き入れ、自己理解を深める。
展開	① 自分のよいところや特色を書く。 ② 別の紙に友達から、自分のよいところや特色を書いてもらう。 ③ ①と②の記述内容を見比べて、「心の4つの窓」の開かれた窓、秘密の窓、盲点の窓に該当する事項を書き込む。
終末	6 「開かれた窓」を大きくし、将来の希望の実現を目指すために、具体的にどうしていくかを、3番の努力点ともかかわらせて話し合わせる。 ・改善や努力をしていくこと ・いっそう伸ばしていくこと

主な指導と援助

「自分の特色についてのまとめ」のワークシートが完成しているか確認しながら、前時の自分を知る活動を振り返らせる。本時は、個性と職業の関係を考える活動をとおして、自分の個性と希望職業との関係についても考え、自分の個性をもっと伸ばしていくための努力点を考えていくことを確認させる。

職業当てクイズは、次のような要領で5つ程度用意する。
①歌がうまい／子どもが好き／優しい
②動植物が好き／体力がある／体を動かすことが好き
③機械が好き／手が器用／几帳面
なお、答えは一つとは限らないことに留意して指導する。

警察官、看護師等、2～3の職業を取り上げ、どんな適性が考えられるか、できるだけたくさん書かせる。生徒がどれだけ職業を理解しているかの評価ともなる。

自分の希望する職業に求められる能力や適性について、自分の考えに不安がある場合は、先生や友達と相談して確認させる。個性と比較しての努力点については、「自分の特色についてのまとめ」を活用して考えさせる。「中学生生活と進路」p.63のS君の例で考えさせてから取り組ませる方法も考えられる。

思考能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
→自分の希望する職業に求められる能力や適性を考える

「中学生生活と進路」のpp.64-65を用いて簡潔に説明する。それぞれの窓にあてはまる特色（個性）は固定したものではなく、変わっていくものであることを理解させる。

①の自分のよいところや特色については、「自分の特色についてのまとめ」のワークシートを用いて記入させ、場合によって追加させる。
②の自分の良さについて書いてもらう友達については、前時の「〇〇さんのよいところ」を書いた人とは異なるように、班をローテーションする等の工夫をする。また、短時間で効率よく作業が進むように、短い言葉で書くことや、班の中で回し書きすることを指示する。

「暗黒の窓」については何も記入されないが、今後の可能性を示す（今後明らかになる個性が入る）部分であることを補足する。

班毎に話し合わせる。班長に司会をさせる。班員一人一人について、3番で各自が考えたことと、「心の4つの窓」の結果を見比べ、何を、どのように改善したり伸ばしたりしていったらよいか前向きに意見交換させ、それぞれのやる気を引き出させる。

問題解決能力 及び **意志決定能力** に関する工夫
→希望実現に向けての努力事項や伸ばす事項の話し合い

5 事後指導

- ・ワークシート等はファイリングさせておき、自己の成長の記録にさせると共に、個別の教育相談の際の資料とする。

1年-33 題材名 「冬休みの反省と新年の決意」

1 目標

- ア 冬休み中の生活と学習の目標を、冬休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 三学期の大きな流れを把握させ、どの時期にどんな生活を送るのかの見通しをもたせる。
- ウ 三学期の学級の具体的活動を確認させ、三学期の学校生活への適応を図らせながら、人間関係を深めさせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：級友同士で、互いに理解し、敬愛し、励まし合う中で、自分を高める。
- イ **感情統制能力**：新学期に当たっての不安を取り除く。
- ウ **意志決定能力**：中堅学年に向けて、1年生の締めくくりをしっかりと行う気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **冬休みの計画表を活用**する。
- イ 冬休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。
- ウ **「三学期の大きな流れ」を示した資料**を用意し、行事を中心にして見通しをしっかりとまとめる。

展開の後半（7、8番）に重点を置き、1年のまとめを意識させることも考えられる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 冬休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。
5分	冬休みの成果と課題を確認し、三学期の流れをつかんでまとめの学期を歩み出そう
展開	2 冬休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題
	3 冬休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・夏休み明け同様、ピア・カウンセリングの手法を用いることを知る
	4 冬休みの計画表を基にしながら、「冬休みの反省用紙」にしたがって各自で冬休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント）
	5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー）
	6 カウンセラーからの回答を読む。
40分	7 先生から三学期の大きな流れについて説明を聞き、三学期の学校生活のイメージを把握する。
	8 二学期末の反省を振り返り、三学期に学級として取り組んでいくことを具体的に確認する。
終末	9 冬休みの反省、三学期の大きな流れや学級の活動方針を受けて、各自がどのように頑張っていくか（努力事項）をワークシートに記入する。 ・みんなと協力して活動していく ・三学期は短い、一年をしっかりと締めくくる

主な指導と援助

数名に発表させる。
有意義な冬休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の冬休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことと、三学期の見通しをもつことを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担任が提出状況を確認する。
教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

〈ピア・カウンセリング実施上の約束事〉
・否定的なこと、人がいやがることは書かない
・秘密は絶対を守る
・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

冬休みの成果と課題を素直に記入させる。
反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配付させる。

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。

人間関係能力 に関する工夫
→ **ピア・カウンセリング**

教師が用意した「三学期の大きな流れ」を示した資料を基に、三学期の学校生活における諸活動の見通しをもたせる。

感情統制能力 に関する工夫
→ **「三学期の大きな流れ」の活用**

ピア・カウンセリングの感想、三学期の学校生活の見通し、学級としての取り組みを踏まえた上で各自の努力事項を考えさせ、ワークシートに記入させる。

意志決定能力 に関する工夫
→ **各自の努力事項のワークシートへの記入**

5 事後指導

- ・冬休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・アンケート集計をストックし、2・3年での長期休業明けにおける振り返り（比較）の資料とする。
- ・学級として三学期に取り組んでいくことを掲示する。

1年-34 題材名 「悩みとその解決」

1 目標

- ア 多くの中学生が、心身の発達の不均衡からくる不安や悩み、自己嫌悪などの問題を抱えていること理解させる。
- イ 悩みや問題を解決する方法を知り、積極的に解決していこうとする態度を養う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：心身の発達の不均衡からくる不安や悩みになげず、自己を肯定的にとらえ、積極的に生かしていく。
- イ **思考能力**：行動面での変化から心身の発達に伴う心の変化について見つめ直す。
- ウ **問題解決能力**：心身の発達の不均衡からくる不安や悩みは誰もが経験する自我の目覚めであることを知り、解決していく。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 自分の心身の成長に着目させ、集団の一員としての心構えを考えさせ、自己を積極的に生かしていく意欲や態度を育てる。
- イ **いらいらや不安・悩みのアンケートを実施**して、資料化しておき、それを基に話し合わせる。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 いらいらや不安・悩みのアンケート結果を基に、その原因と解決法を考えることを確認する。 いらいらや不安・悩みの原因を探り、その解決法をみんなで考えよう
展開 43分	2 アンケート結果をみて、同じ経験がないかを含めて感想を発表する。 ・みんなも何だかいらいらすることがあるんだ ・なぜこの時期はこんな悩みが生じるのだろう 3 アンケートAのいらいらも、見方を変えればアンケートBの不安や悩みであることを理解し、Bの不安や悩みについて考えていくことを確認する。 (1) Bの10項目の不安や悩みについて、班毎に話し合う項目の分担を決める。 (2) 班毎に、分担した項目についてブレインストーミング法で話し合う。 (3) 各班で話し合った項目毎の不安や悩みの原因と解決法について発表し、全体で確認する。 4 本時の活動を振り返り、自分の不安や悩みに対してどのように対処していくかを含めて感想を発表する。
終末 2分	5 中学生の心身の特徴について先生の話聞く。 ・中学生は、大人に向かって心身が急激に発達し、そこからくる不均衡で、精神的に不安定になりがちである ・自分で解決できない時は相談をする

主な指導と援助

A「中学生生活と進路」p.69の気持ちのチェック表でいらいらの状況を、B同じくp.70の「中学生のさまざまな悩み」で不安・悩みの状況をアンケート調査し、OHP等で提示する。それを基に活動のテーマを確認させる。

誰もが同じ思いをしたり、同じような経験をしていることに気付かせ、共感的に受け止めさせる（行為そのものは良いことではないが、そのようにしてしまうことがあるということ。）

思考能力に関する工夫

→各自の行動の変化から心の変化に気付かせる

OHPやパソコンのスライドで、1番で示した資料Bに、資料Aを組み込んで示す。

「中学生生活と進路」p.70の「中学生のさまざまな悩み」に例示されている次の10項目を、各班に割り当てる。
①学習/②部活動/③運動/④友人との関係/⑤異性との交際/⑥家族との関係/⑦学校生活/⑧進路/⑨性格/⑩放課後の生活

問題解決能力に関する工夫

→ブレインストーミング法による話し合い

成長の証として肯定的に捉えさせ、自分自身で解決する気持ちを大切にさせる。
ストレスを溜め込まないで適度に発散・気分転換をしたり、相談したりすることが大事であることに気付かせる。

感情統制能力に関する工夫

→各自の不安や悩みに対する対処法の発表

心身の急激な変化に伴ういらいらや不安・悩みからくる中学生期の粗野な言動等は、成長の証ではあるが、他に危害を加えたり自暴自棄になることは決して許されないことを強調する。
また、不安や悩みに対して個別の相談を受けやすいように、プライバシーの保護や、相談に応じる教師集団の連携等について配慮することを説明する。

5 事後指導

- ・必要に応じて個別の相談を行う。
- ・いらいらや不安・悩みの調査結果や学習の様子を家庭にも知らせ、温かい励ましと援助をお願いする。

1年-36 題材名 「進路と将来設計」

1 目標

- ア 将来どんな生き方をしていきたいのか、どんな仕事をしていきたいのかを考え、主体的に進路計画を立てることができるようにさせる。
- イ 職業に就くためには多様なコースがあり、自分に合ったコースを選ぶことができることを理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：「20年後の自分」を考える。
- イ **意志決定能力**：自己を生かすために主体的に進路計画を立てる。
- ウ **情報選択能力**：インターネットで就きたい（興味のある）職業に就くまでのコースを調べる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「20年後の自分」について、いくつかの観点から考えさせる。
- イ いろいろな職業に就くまでの**進路コースを、インターネットで調べる方法を知らせる**（コンピュータ室を活用）。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 将来の自分の生活が満足いくものになる上で大切なことはどんなことか考え、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 将来、どんな生き方や仕事をしたいかを考え、その仕事に就くためのコースを調べよう </div>
5分	
展	2 これからの社会がどのようになると思うかを考える。 ・高度技術化 ・国際化 ・高齢化 ・情報化 3 2番で考えたことを踏まえ、「20年後の自分」について、次の観点でワークシートに記入する。 ア 職業と職場での生活 イ 家庭での生活 ウ 余暇の過ごし方 エ 地域での活動 オ その他 4 班内で読み合って考えを広める。 ・みんな楽しい夢を描いていておもしろい 5 自分の就きたい職業、興味のある職業に就くためのコースを調べる方法を理解する。 (1) 「中学生活と進路」p.76の図を参考に、一つの職業に就くにも様々なコースがあることを理解する。 (2) 自分の就きたい（興味のある）職業に就くまでのコースをインターネットで調べる方法を理解する。
開	
40分	
終	6 20年後の仕事に就くまでの進路設計の書き方の説明を聞いて、設計の見通しをもつ。 ・いつ、どこの学校や職場に入るか ・そこで何を学んだり、どんな仕事をするか
5分	

主な指導と援助

自由に発表させ、次のようなことを引き出す。
 ◎好きな仕事（自分に向いた仕事） ◎生き甲斐 等
 ここでは、仕事や生き甲斐について漠然と出ればよいこととし、あまり深入りしない。

自由に発言させた後で、教師が説明する。
 将来の生活を満足させるためには、自分の能力を生かすために、社会のニーズの変化を考える必要もあることを理解させる。

「20年後」に設定した理由は、生徒の年齢が33歳程になっており、大方が職に就いて働いているばかりでなく、家庭をもっている者も相当数あると想定され、夢を具体的に描きやすいと判断したためである。
 生徒の実態や指導のねらいから、条件を設定するように留意する。

思考能力 に関する工夫
 →「20年後の自分」を考えて記入

互いの良さを認め合い、批判をしないように留意させる。

コンピュータ室を利用して活動する。

複数の職業について調査し記入することができるように、ワークシートの記入欄は複数用意しておく。
 利用するWebサイトとして、次のものを紹介する。
 ①進路指導net
 ②JOB JOB WORLD
 ③将来の仕事 なり方完全ガイド

情報選択能力 に関する工夫
 →インターネットで職業に就くまでのコースを調べ方

インターネットで職業に就くまでのコースを調べ、その図に基づいて、実現までの具体的な時期や学校名、職場名等、そこの活動の概略を書き込むように指示する。

意志決定能力 に関する工夫
 →進路設計の立案への見通し

5 事後指導

- ・職業に就くまでの様々なコースを放課後等に各自で調べさせ、それを掲示したり、冊子にまとめたりする。
- ・進路設計は、時間内に書き切れなかった場合は課題とする。

1年-37 題材名 「進路計画の必要性」

1 目標

- ア 将来の進路希望を実現させるためには、適切な進路計画が必要であることを理解させる。
- イ 進路計画は、必要に応じて、変更・修正していくべきものであることを理解させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **問題解決能力**：進路計画の必要性について考える。
- イ **意志決定能力**：実用的な進路計画を作成し、進路選択に生かすよう決意する。
- ウ **情報選択能力**：進路希望の理由から、どんな時に進路計画の変更・修正が必要か気付く。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **14・15**「私たちの将来の希望」の際の資料を振り返り、**進路希望変更の有無とその理由のアンケート**を実施し、資料化する。（「中学生活と進路」p.78を利用して理由を選択式にしてもよい。）
- イ **資料を基に話し合う**。場合によってはディベート形式で話し合うことも考える。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 進路希望の変化のアンケート結果から、進路計画の必要性について考えることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 将来の夢の実現を図る上での、進路計画の必要性を考えよう </div>
3分	
展	2 進路希望の理由についての資料を確認し、どんな時に変更が必要かを読み取る。 (1) 希望が変わった人の理由 (2) 希望が変わらなかった人の理由 3 進路計画の必要性について、班毎に話し合う。 (1) 進路計画の利点（計画がないと何が困るか）を考える。 (2) 進路計画の欠点（計画を生かすために何が大切か）を考える。 4 話し合った結果について、各班毎に発表し、全体で確認する。 ・見通しや目標をもつことで、着実に準備をしたり達成状況を確認したりできるので大切 ・実現を目指して、その時々で自分に合ったものに ・変更・修正していかないと意味がない
開	
45分	
分	5 3番の話し合いや4番の意見を参考にして、進路計画の必要性や活用についての自分の意見をまとめる。
終	6 先生の話聞いてまとめをする。 ・1年生段階では詳しく進路計画を立てることはしないが、計画自体は大切である ・絵に描いた餅にしないためにも、必要に応じて変更・修正する
末	
2分	
分	

主な指導と援助

- 前時の進路設計の学習を踏まえ、進路希望の変化の傾向（多い、少ない）と照らし合わせて進路計画の必要性について考えていくことを活動テーマとすることを確認する。
- 希望の変化の有無よりも、理由に注目させ、次の話し合いの根拠とさせる。
情報選択能力 に関する工夫
 →進路計画が必要になる理由の把握
- 話し合いを活発にするために、ディベートの手法を取り入れるのも一法であるが、その際は、「必要派」の意見が優勢になることを見通しておく。
問題解決能力 に関する工夫
 →進路計画の必要性についての話し合い
- 各班からの意見を、利点と欠点に分けて板書する。利点と欠点は表裏の関係にあり、学習計画等と同様に、活用すれば効果がでるが、そうでないと意味をなさないことに気付かせる。
- 進路の問題は長期にわたるものなので、そういう時こそ計画が必要であり、しかも実用性が必要であることを理解させる。
意志決定能力 に関する工夫
 →進路計画の必要性と活用についての考え
- 「卒業生からのメッセージ」の形で、計画をしっかりとをもって努力していくことの大切さを紹介しても良い。

5 事後指導

- ・次時は、実際に進路計画を立てるので、各自の進路希望をもう一度確認させる。家の人ともしっかり話し合っていくようにさせる。
- ・希望理由等で個別に指導が必要な生徒への配慮をする。

1年-38 題材名 「進路計画の立て方」

1 目標

- ア 将来の進路希望を実現するための進路計画の立て方を理解させ、実際に計画を立てさせる。
- イ 計画に沿って進路の実現を目指して努力しつつ、様々な情報を得て計画を変更・修正していく心構えをもたせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：将来の進路希望の実現を目指した進路計画を立てる。
- イ **意志決定能力**：自己実現を図る努力をする。
- ウ **情報選択能力**：将来の進路希望の実現を目指した計画の立て方を理解する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 具体的な**進路計画の立て方**を理解させ、実際に立てさせる。
- イ **進路計画の立案を行うためのフレーム**を用意する。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 前時の復習をし、進路計画を立てることの必要性を確認する。 進路計画の立て方を理解し、自分の進路計画を立てよう
展開	2 進路計画を立てるためには、どんなことを考えたり、どんな情報を集めたりすることが必要かを考え、発表する。 ・その仕事の内容 ・どんな適性が必要か ・どのようにすればその仕事に就けるか 等 3 「中学生生活と進路」 pp. 80-81を例に、進路計画の立て方を理解する。 ・進路選択のための6つの段階に即して立てる ①将来の希望職業、②進路を決める目的、 ③自分の特色、④進路先の状況、 ⑤進路計画、⑥ 進路相談
展開	4 自分の進路計画を立てる ・これまでの進路の学習を踏まえて記入する ・特にも、進路計画の中の「計画立案」の項目は、前々時36の学習を生かして記入する
46分	5 現時点で記入できない項目や不十分な項目には、ワークシートに印（★など）をし、今後の努力事項をワークシートの最後にまとめる。 ・適宜、周りの人達からアドバイスを受ける
終末	6 先生の話聞く。 ・進路計画を記入することによって、明確になることがある ・今後、3年生までかけて少しずつ情報をつかみ、計画を変更・修正していく

主な指導と援助

将来の進路の希望について家族と話をしてきたかを確認し、本時の活動テーマを提示する。
家族と話してこない場合は、今の自分の希望を優先して作業するように話す。

思いっくまま自由に発表させる。
意見が出にくい時は、具体的な職業を想起させて考えさせる。

この形での進路計画作りは、変更・修正を加えながら3年生まで継続していく。

情報選択能力 に関する工夫
→**進路計画の立て方**

「中学生生活と進路」 pp. 80-81を参考に、ワークシートを作成して配付する。
1年生なので、あまり詳しく記入できなくてもよいことに留意する。

思考能力 に関する工夫
→**自分の進路計画の立案**

今後の努力事項については、学習面だけでなく、生活面にも結びつけて考えるようにさせる。

意志決定能力 に関する工夫
→**自己実現への努力**

現時点で記入できる内容でも、時間的に記入できなかった事項は、課題として取り組ませる。

5 事後指導

- ・各自が作成した進路計画に目を通し、必要に応じてアドバイスをする。また、保護者にも見てもらう。
- ・最後は、これまでの関連資料と一緒に、ポートフォリオとして整理（ファイリング）し、次年度以降の指導に引き継いでいく。

1年-39 題材名 「学年の反省」

1 目標

- ア 1年間の中学校生活の反省を確実に行わせる。
- イ 2年生への課題を明確にさせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：不本意だったことも客観的に振り返る。
- イ **思考能力**：個人、学級、学校生活の各レベルで1年間を振り返り、2年生に向けての課題と心構えを考える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 個人の生活の反省、学級、生徒会、学校行事、部活動の取り組みの反省を確実に行わせる。
- イ 個人の「**毎日の生活の記録**」や**年度初めに立てた目標**を用いて一年間を振り返らせる。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入 7分	1 個人の「毎日の生活の記録」を見返し、この1年間を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 中学校での1年間の生活の反省をし、課題を明確にしよう </div>
展開 36分	2 年度初めに立てた個人目標を見返し、その時の決意を想起する。 3 2番を踏まえながら、各自でワークシートにしたがって反省を記入する。 ア 1年間で一番頑張ったこと イ 一番努力したこと ウ 私にとってのこの一年 エ 各項目毎の反省 ①学校での生活 ②友人とのこと ③教科・学習 ④総合的な学習の時間 ⑤行事の取り組み ⑥係・委員会活動 ⑦部活動 ⑧健康や安全（身体） ⑨家族の一員として 4 この1年で一番印象に残ったことを発表する。 ・文化祭や体育祭等の学校行事 ・遠足（宿泊研修）等の学年行事 ・部活動 等 5 各自が一番努力したことを発表する。 ・部活動、係活動 ・新しい教科の学習、総合的な学習 ・新しい友人との人間関係 等
終末 7分	6 2年生に向けての課題をまとめ、ワークシートに記入する。 ・生活や人間関係の面から ・学習の面から ・行事や諸活動の面から

主な指導と援助

個人の「毎日の生活の記録」等の資料がないときは、学級日誌を用いて教師が読み上げる等の工夫をする。
 各自の「毎日の生活の記録」を見返すに当たっては、教師がリードし、行事を中心に振り返る。

ワークシートの「各項目毎の反省」については、「頑張ったこと・努力したこと・成果」と「反省・課題」をありのまま記入するように指示する。

思考能力 及び **感情統制能力** に関する工夫
 →ワークシートに基づいて1年間をありのまま反省

数名に発表させ、同じ意見の人は挙手または起立させる。
 みんなでやり遂げたこと、解決したことが共通の思い出になっていることに気付かせる。

数名に発表させ、友達の頑張りを認めていく気持ちをもたせる。

3番で反省した内容を、生活・人間関係、学習関係、行事や諸活動への取り組み関係等に分類し、中でも特に改善、努力していく事項をまとめさせる。

思考能力 に関する工夫
 →2年生に向けての課題の記入

5 事後指導

- ・「私にとってのこの一年」や「2年生に向けての決意」は原文を通信等で紹介したり、学年代表の学年末の挨拶に反映させたりする。
- ・「1年間で一番頑張ったこと」「一番努力したこと」は集約して通信等で紹介する。

1年-40 題材名 「中堅学年への抱負」

1 目標

- ア 1年間の反省を踏まえ、新たな気持ちで2年生の学校生活を迎える心構えをもたせる。
- イ 先輩としての言動のあるべき姿を考えさせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 2年生での課題の改善策を検討し合い、信頼関係を深める。
- イ **問題解決能力** : ㊸ 2年生に向けて、具体的に、どこをどう改善するか考える。㊹先輩として、後輩にどう接し援助していくか考える。
- ウ **意志決定能力** : 中堅学年に向けて新たな決意をもって春休みを迎える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 前時に取り組んだ1年間の反省の上に、2年生に向けて具体的な目標や決意をもたせる。
- イ 1年間の**中学校生活で困ったことや悩んだこと、入学時の作文を基にして、先輩としての心構え**を考えさせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 3分	<p>1 前時の復習を踏まえ、2年生に向けての心構えを考えることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1年間の反省を踏まえ、中堅学年を迎える上での心構えをつくろう</p> </div>
展開 42分	<p>2 前時の「2年生に向けての課題」について、2年生での各自の具体的な改善の方策を考えてワークシートに記入する。</p> <p>3 班の中で互いに改善策を見合い、それぞれの考えに対して意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すばらしい改善策に対する評価と賞賛 ・改善策をもっと効果的で充実したものにするためのアドバイス ・改善策の実行に向けての激励 <p>4 上級生（中堅学年生）としての心構えについて考える。</p> <p>(1) ワークシートの「上級生として」の欄に、この1年間で困ったことや悩んだこと、入学時の作文に書いた先輩のすごさや素晴らしさを各自で記入する。</p> <p>(2) 班毎に記入した内容を確認し、先輩として好ましい助言や援助をしていくために、どういう心構えが必要か話し合う。</p> <p>(3) 各班で話し合った結果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に下級生の手本となる言動をとる
終末 5分	<p>5 中堅学年となる上での各自の心構え・抱負をワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題克服の具体策を必ず実行し、改善する ・先輩として恥ずかしくない言動をとる ・自分達が困ったことを後輩に繰り返させない

主な指導と援助

- 前時のワークシートを配付する。
中堅学年に向けて、課題をどのように解決していくか、先輩としてどんな心構えが必要かを考えることを、本時の活動テーマとして確認する。
- 課題点について、どこをどう改善するか具体的に考えさせる。
問題解決能力㊸ に関する工夫
→ 2年生での改善策の記入
- 互いの改善策を認め合うとともに、みんなで検討することで個人では考えつかなかった改善策を考え出させ、しっかり実行していこうとする決意をもたせる。こうした活動をとおして信頼関係を深めさせる。
人間関係能力 に関する工夫
→ 各自の改善策を検討し合う活動
- 記入の観点として、①登下校、②学校生活、③学習（勉強）、④生徒会活動、⑤行事関係、⑥部活動等を準備する。
自分が困ったことや悩んだこと、入学時に感じた先輩のすごさや素晴らしさを中心に記入し、すべての観点について記入する必要はないことを告げる。
- 各自から出された事柄を尊重し合うとともに、それらへの対処法のアドバイスをどうするか具体的な案を考える中で、先輩としての心構えをまとめるように指示する。
- 各班から出された事柄を板書する。
学習や学級のことだけではなく、学校全体や生徒会、部活動における2年生の立場を自覚するように留意させる。
問題解決能力㊹ に関する工夫
→ 先輩としての心構え、具体的行動
- 春休みの計画表を配付し、その目標欄に記入させることも考えられる。
意志決定能力 に関する工夫
→ 中堅学年となる上での各自の心構え・抱負

5 事後指導

- ・各自の心構えや抱負を、通信等で紹介する。また、春休みの計画表作成に生かす。
- ・ワークシートはポートフォリオとして整理し、2年生に引き継いで指導に生かす。